

ふみびと

第341
発行所
文通村事務局
編集 広報部
千葉県成田市

手紙で寄り添う 誰かの日常

不安と期待を胸に

卒業シーズン。幼稚園の卒園式から大学の卒業式まで五度経験した「卒業」のその日は、記憶が薄れるほどの時間が経ったようにも思えるし、今でも鮮明に覚えている瞬間もあったりと不思議なものです。

「不安と期待を胸に」卒業式のスピーチでよく聞くように、様々な思いを抱えながらその日を迎えたことを思い出します。そんなことをふと思っただのは、昨年甲子園を沸かせて注目された野球の佐々木麟太郎選手の言葉を聞いてのこと。



アメリカのメジャーリーグを目指して、スタンフォード大学に入学することになった佐々木選手は、スピーチで「失敗するのが当たり前と思って挑戦したい」と語ったそうです。

うまくいかないかもしれない、そんな不安を抱える人もいれば、絶対に成功するという自信を持っている人もいる新天地での挑戦に、失敗すること

まで想定して向かう強さのようなものを感じました。

失敗から学ぶ覚悟を持つて初めから挑戦することができていたら、どれほど力強く夢に向かって走ることができただろう。記憶もおぼろげになるほど遠い過去の年齢の自分と同じ年齢の若者とは思えないほど、しっかりと未来を見据えている姿は、これだけ大人になっ

風に揺られて誰かに届け 風船便

風船便はいつでも誰でも参加できますが、その受取は新規の方へ優先されます。送り方は簡単♪下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。事務局宛の筒封下流で局用封今交り

風船便

通行人

いつものコンビニで、見慣れた店員さんの姿が見えないのに気づく。そういえばしばらく目にしていない。辞めてしまったのだらうか。笑顔がとても感じのいい人だった。親しかったわけではないのに、もう会うこともないのかと思うと少し寂しくなった。私たちは、毎日、名も知らない

人々とすれ違う。コンビニの店員さん、電車の中の隣人、道を歩く人々。友人でも知人でもない、名前も知らない関係性。彼らは知らず知らずのうちに日々色を与えてくれる。たとえばコンビニでのちよっ

とした笑顔、電車内での会釈、道を譲る小さなジェスチャー。そんな小さなやさかなことで、心が明るくなることもある。自分もまた誰かにとって名前のない通行人であるのだ。笑顔を浮かべてくれた店員さんのように、時に誰かの心をやさやかに照らせる通行人であれたらと願う。

次回発送日

次の発送は25日(月)の予定です。送りたいお手紙がある場合は22日までに事務局に到着することを、近くの郵便局で確認の上、ポストに投函して下さい。

お知らせ

★感想・体験談

皆さんのお声をウェブ上で掲載させて頂きたい。方法は事務局宛でのメモや便せん、何でも有り難いです。頂いたメッセージは個人情報保護を伏せた上でご紹介させて頂きます。なお、今後文通村の村人検索に新しい機能が追加される予定です。どうぞお楽しみに。

